

平成27年度 全国学力・学習状況調査

実施報告書

平成27年12月
札幌市教育委員会

はじめに

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」ことを目的として実施しているものであります。本年度は小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年、中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全児童生徒を対象に、平成27年4月21日（火）に調査を実施いたしました。

札幌市においては、平成19年度からの調査開始以来、分析結果と改善の方向性等について、その都度報告書としてまとめてきました。平成27年度調査につきましても、全国的な状況との関係において、本市の調査結果から明らかとなった課題や改善の方向等を、10月に「札幌市の調査結果の概要」としてまとめ、各学校に示しました。また、今年度は、これまで以上に丁寧に詳しく説明する観点から、新たに平均正答率の見方や取扱い方等、調査結果の活用や公表の仕方について示した上で、分析の根拠となる札幌市全体の平均正答率の数値を加えて公表しました。その後、各領域や設問ごとに、全国の解答状況との比較や解答類型及び無解答率の検討など詳細な分析を行い、このたび指導方法の改善の方向等について本実施報告書にまとめました。

教科に関する調査の結果を見ると、教科・領域では、小学校で、国語及び算数の問題A・B、理科の問題のいずれについても、全国平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内にあり、「ほぼ同程度」となっており、中学校でも、国語及び数学の問題A・B、理科の問題のいずれについても、小学校と同じく、全国平均正答率と「ほぼ同程度」となっています。

問題ごとにみると、知識・技能の定着については、小学校国語の「漢字を正しく書くこと」や小学校算数における「分数の計算」などにおいて課題が見られ、活用に関しては、小中学校ともに、「根拠を明確にして、自分の考えを書くこと」や「問題解決の方法を説明すること」「判断の理由を説明すること」などの問題で、全国と同様に誤答率・無解答率が高い状況が見られております。

各学校におかれましては、本書を参考にしつつ、自校の調査結果の分析に基づき、「「学ぶ力」育成プログラム」の充実を図り、子どもたちの学習意欲を高め、自ら学ぶ力、自ら考える力などの生きる力をはぐくむために、指導方法等のより一層の充実・改善を進めるようお願いいたします。

札幌市教育委員会

教育長 長 岡 豊 彦